

「水素による持続可能な地域社会に向けての展開」



コンセプト

岐阜県の豊かな自然をモチーフに
SEIRYUの頭文字Sを、山並みを表すグリーン、
清流の川の流れを表すブルーで表現し、
どこまでの続いていく滑らかな曲線が、自然と調和し、
そして未来へと続いていくエネルギーの象徴となるように
想いを込めました。

2016年8月8日

株式会社清流パワーエナジー
取締役 遠山 升貴

G III **ぎふ長良川**
再生可能エネルギー協議会
(2014年4月設立)

幹事

(株)トオヤマ (岐阜県岐阜市)

大和リース(株) (愛知県名古屋市)

大日本コンサルタント(株)
(東京都豊島区)

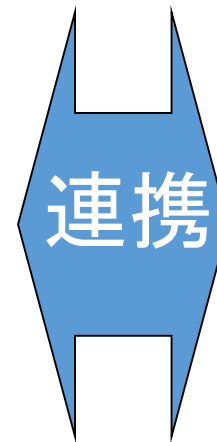
賛助会員

濃尾電機(株) (岐阜県岐阜市)

森松工業(株) (岐阜県本巣市)

岐阜北建設(株) (岐阜県岐阜市)

産学官の連携による
事業性のある再エネ社会の構築を目指す



岐阜県

次世代エネルギー産業創出コンソーシアム

岐阜大学

次世代エネルギー研究センター

八百津町

ガス会社

高圧ガス製造及び取扱い

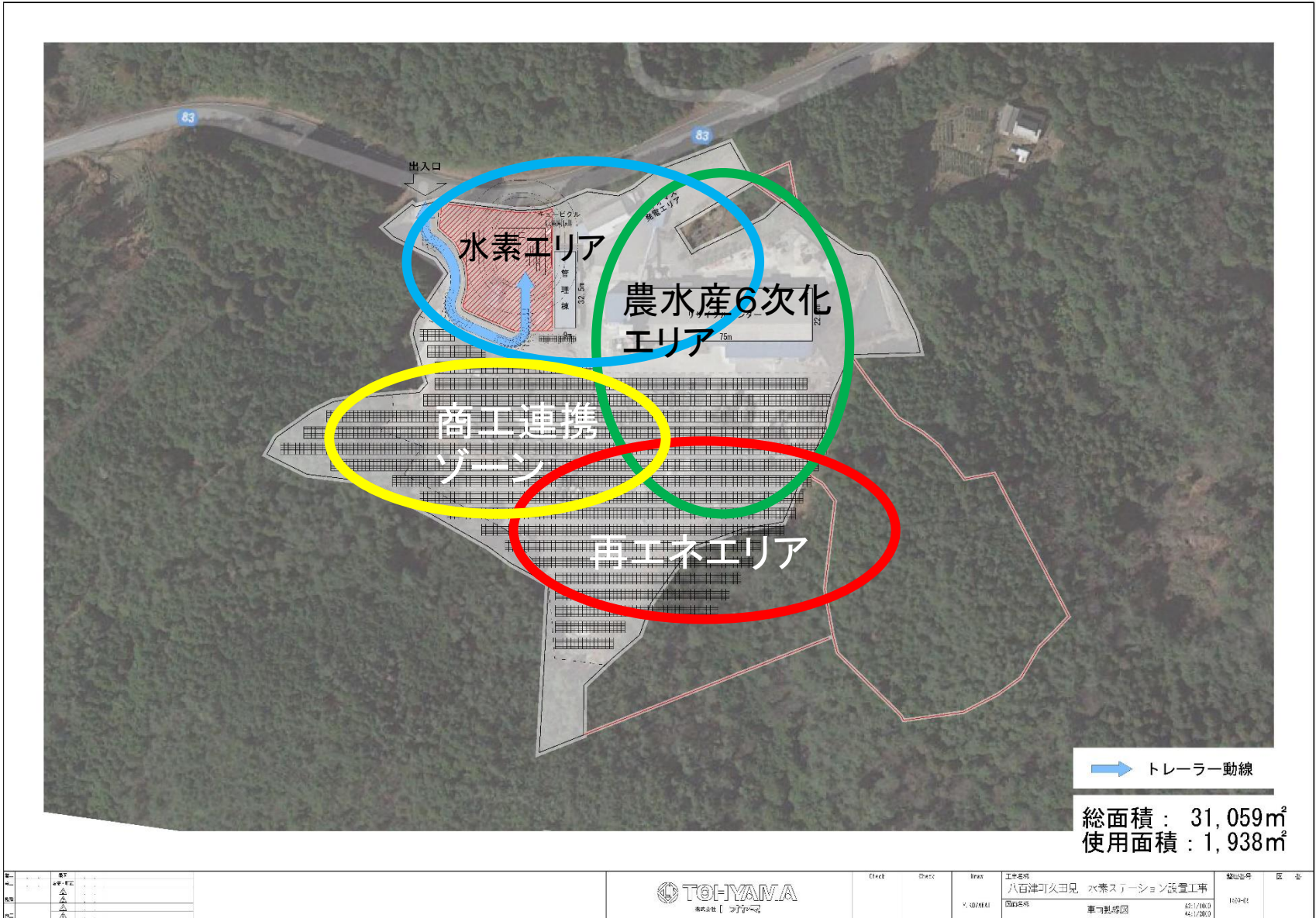
重電メーカー

純水素燃料電池の開発

ハウスメーカー

市場開発、燃料電池実証試験

八百津町久田見 現地計画図 (案)

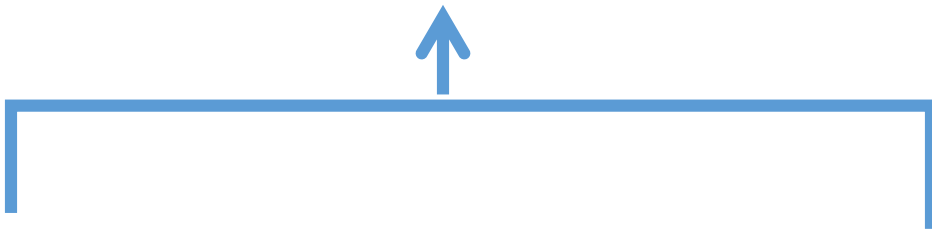


清流パワーエナジー

2015年 10月
(株)トオヤマ・大日本コンサルタント(株)
による合併会社として設立



【設立目的】
・水素インフラ事業
・再生可能エネルギー事業
を総合的に展開することを目的



本社所在地 岐阜県岐阜市
資本金 3,000万円
昨年度売上 約40億円

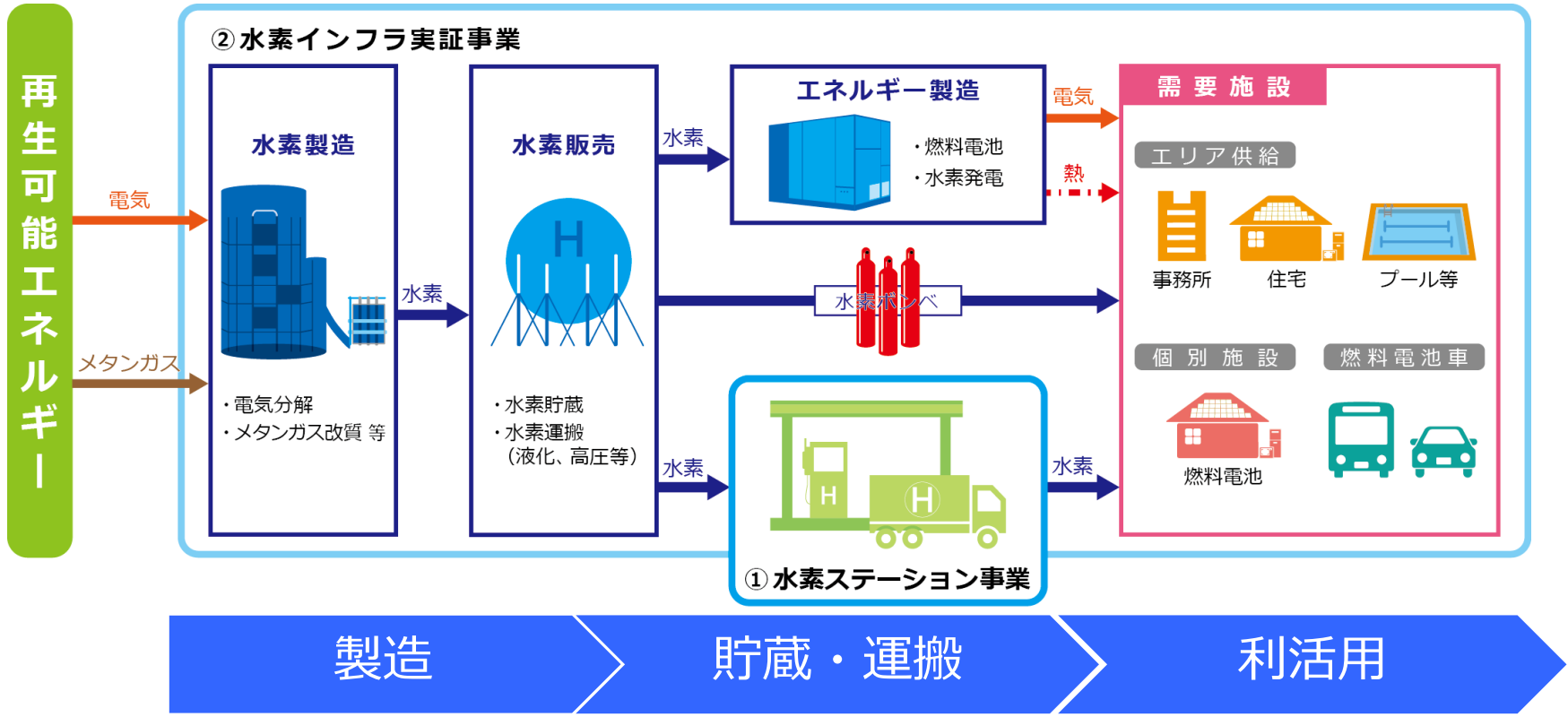


大日本コンサルタント株式会社
NIPPON ENGINEERING CONSULTANTS CO.,LTD.

本社所在地 東京都豊島区
資本金 13億9900万円
昨年度売上 約130億円

水素事業

- 再生可能エネルギーを活用した水素の製造から貯蔵、販売を手掛ける
- 当初は、①水素ステーション事業を展開（八百津町、岐南町、土岐市）
- 次いで、②水素インフラ事業を実証事業の展開を予定（八百津町）
- 実証事業等を踏まえた上で、将来的な水素インフラ事業に本格参入



水素事業 ①水素ステーション事業

【設備保有者】



運営契約

【運営会社】



清洩 パワーエナジー

運営一部契約

【水素販売会社】

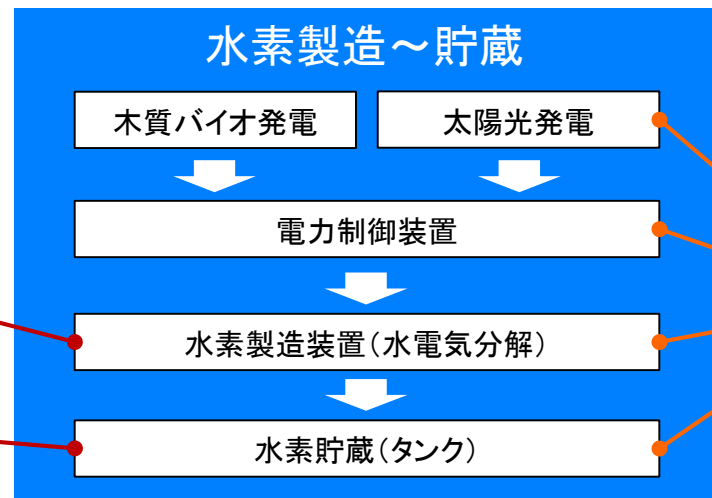
三興産商株式会社

水素販売



水素事業 ②水素インフラ実証事業

GIII スキーム等検討など
ぎふ長良川
 再生可能エネルギー協議会



工作機械メーカー
 (現在調整中)

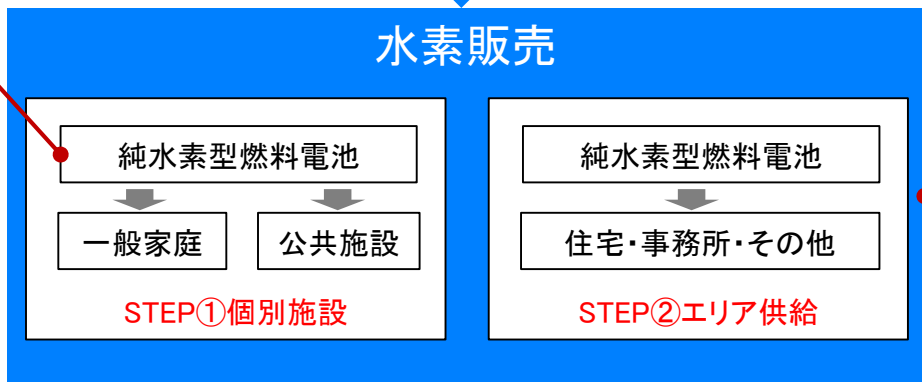
森松株式会社

三興産商株式会社
 水素を清流PWEから購入し、
 実証施設へ販売

Brother株式会社
 森松工業株式会社
 清流PWE
 (7月正式発表)



基本は自家発電
 余剰分を中部電力に売電
 製造した水素を三興産商に販売



八百津町
 実証フィールドとして協力
 (現在選定中)

平成28年6月28日
中日新聞朝刊
1面・8面 掲載



中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-0011 電話 052(301)3811
2016年(平成28年)
6月28日(火)

中日新聞

2016年(平成28年)6月28日(火曜日)

業務用 先行利益狙う

ブラザー燃料電池 共同で開発加速

ブラザー工業(名古屋)が新事業として業務用の燃料電池の開発に乗り出すのは、家庭用と違って各メーカーによる製品化が進んでおらず、素早い製品開発によって、シェア拡大の勝機が見いだせると判断したからだ。(石井宏樹) 〇〇面参照

経済産業省は今年三月に「水素・燃料電池戦略ロードマップ」を改訂。業務用、家庭用の燃料電池や燃料電池車(FCEV)普及の青写真を描いた。官公庁や企業向けの燃料電池に求められる出力は五倍以上で、家庭用の七倍以上。耐久性や低コスト化が求められ、各メーカーが現在、実証実験を進めている段階だ。政府は一〇一七年以降、製品の市場投入が本格化するとみている。

ブラザーは水素の製造や扱いに慣れたベンチャー企業「清流パワーエナジー」(岐阜市)などと手を組むことで、製品化のスピードを上げ、先行者利益の取り込みを狙う。

業務用とは異なり、家庭用燃料電池「エネファーム」はすでに十五万台が普及しているが、都市ガスなどから水素を取り出す際に二酸化炭素(CO₂)を排出するが課題。現在、風力発電などの再生可能エネルギーから水素を製造する実証実験が全国各地で進んで

いる。業務用でも、当面は天然ガス由来の水素を利用せざるを得ないが、将来的には再生可能エネルギーで作った水素の利用拡大が期待されている。ブラザーはミシンの製造で培った技術を軸に、工作機械やタイプライター、プリンターなどと製品群を拡大。時代に合わせて事業の多角化を成功させており、今後の需要の伸びが期待できる燃料電池にも期待を寄せ

ブラザー燃料電池開発へ

業務用、岐阜の2社と共同

ブラザー工業(名古屋)は岐阜県内のベンチャー企業と共同で、二〇一七年にも燃料電池の本格開発に乗り出す。高出力な業務用の燃料電池システムを、学校や官庁、企業など大型施設へ導入し、成長が見込まれる新分野で事業の開拓を目指す。〇〇面参照

燃料電池 水素が電解質を通過する際に電子を放出する仕組みを利用した発電装置。電子を出した後の水素は空気中の酸素と化学反応し、水として排出される。発電の過程で二酸化炭素(CO₂)を排出せず、地球温暖化防止に有効とされている。

たせる。

ブラザーは二年一月に機械部品メーカーのニッセイ(愛知県安城市)を子会社化した。モーターの出力を調整する減速機などが主力のニッセイは、小型の非常用燃料電池を生産していたが販売は伸び悩んでいた。ブラザーはニッセイの持つ燃料電池のノウハウを取り込んで今後の需要の伸びが期待される業務用燃料電池を開発。自社の営業網で拡販することで事業の多角化を狙う。

清流パワーエナジーは、岐阜県八百津町に大規模な太陽光パネルと木質バイオマスによる発電所の建設を計画。クリーン電力で水素を生産し、「二酸化炭素(CO₂)を排出しないエネルギー供給を目指している。ブラザーと燃料電池システムを共同開発し、再生可能エネルギーで作った水素の販売先を確保したい考えだ。

将来像のイメージ

太陽光や木質バイオマス等の地域資源をエネルギー資源として有効活用することで、100%エネルギー自給自足の町を目指し、町のブランド力の向上と雇用の創出に繋がる地域活性化策を促進していく

観光地としての付加価値。

観光

杉原千畝記念館 温泉地

産業活性による雇用創出の価値。

地場産業

林業・農業・製造業など

- ・環境にやさしいまち。
- ・100%エネルギー自給自足。

新エネルギー

木質バイオマス 太陽光発電

環境負荷軽減策としての価値。

- ・安心して観光に来れるまち。

災害に強いまちづくり

水素 役所 温泉地

安全・安心なまちとしての付加価値。

熱供給事業

農業活性化



温室ハウス

- ・八百津ブランド(クリーン農作物)
- ・雇用創出
- ・地産地消



食材
提供

観光活性化



入浴施設

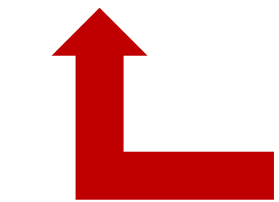
- ・観光客誘致
- ・雇用創出

休憩所

- ・町民保養
- ・地産地消



外国人
観光客



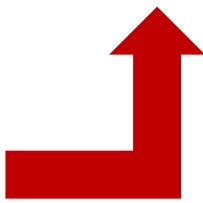
熱

林業活性化



木質バイオマス発電

- ・雇用創出
- ・地産地消



熱

杉原千畝記念館

